

自分が種から育てた作物を
“おいしい”と言って
食べてもらえたときが一番うれしい

インタビュー② 田んぼを有効活用 タマネギ栽培



有限会社味方ふぁーむ
(南区味方) 玉木 利恵子さん

地域の農地を守りたい
「母の手伝いで始めたミニトマトの栽培が楽しかった」。
玉木さんは自然を相手にする農業の魅力に引かれて、それまで勤めていた仕事を辞め、6年前に「味方ふぁーむ」に転職しました。
同社は地元5農家が集まって作った法人で、県内でも有数の稲の作付面積を誇ります。近隣の農家が高齢化し担い手が減少する中、預かる農地が年々増えているのだそうです。「農業の担い手はこれからますます減っていくと思います。地域の農地を守るためにも、私たち若い世代が頑張らなければいけない」。

田んぼでタマネギ栽培
同社が園芸作物で今一番力を入れているのがタマネギです。「農地を有効活用するため、稲刈りが終わった田んぼにタマネギの苗を植え、翌年5月ごろに収穫をしています。寒さに強く冬を越せることがタマネギの魅力の一つです」。
ことしで3年目となるタマネギ栽培は試行錯誤の連続だといいますが、1・2年目にうまく育てられなかった反省を生かし、今回は品種を変えたり、水の量を調整したりしました。「農協職員の助言もあり、ことしの苗は順調に育っています。収穫時期が楽しみです」。
同社では11月中旬を過ぎると忙しさが落ちてくるといいます。玉木さんは「農業の良いところは1年を通して忙しさにめりはりがあること。毎年、冬には社員全員で旅行に行っています。今はそれを楽しみにしながら仕事を頑張っています」と笑顔で教えてくれました。



タマネギの苗はハウスで栽培



10月中旬に、乾いた田んぼに機械で苗を植える。写真は植え終えた状態のもの



味方ふぁーむの仲間。若い世代が地元に戻り、従業員は増加



インタビュー① 地域で取り組む 園芸ハウス導入

新潟のコメを守り続けたい
坪谷さんが農業を始めたのは22歳の時。先祖代々続いていた農家を継ぐため、東京で4年間勤めた陸上自衛隊を辞め新潟に戻ってきました。27歳の時に、生産の効率化のため近隣の8農家が集まり「木津みずす生産組合」として法人化しました。
同生産組合が発足当時から力を入れてきたのがコメの流通先の開拓です。おいしいコメをできるだけ安く食べてもらいたいという思いから、直売を中心に販売先を増やしていきました。「コメが不作の年も値上げをせず、直接買ってくるお客さまを大切にしていきたい」と坪谷さん。販売先の多くは口コミで広がっていきました。
「新潟は全国に誇れるコメの産地。これを守り続けていくためにも農業を稼げるものにしていかなくてはならない」。年間を通して安定した収入を得るため、田植え・稲刈りの時期以外に園芸作物の導入に取り組み始めました。

4法人が協力し園芸を導入
同生産組合は、2年前に近隣の農業法人(あしぬまカントリー、エフ小杉、エーエフカガヤキ)と一緒に「木津ハウス組合」を設立。ビニールハウス7棟でイチゴ、ミニトマト、イチジクの作付けを始めました。複数の農業法人による園芸ハウスの大規模導入は県内で初めて取り組みです。「以前からお互いに作業を手伝うなど協力してきた4法人だからこそ、この事業に取り組みました」。
ハウス栽培の共同経営は、栽培ノウハウや労働力などを共有できることが利点です。同ハウス組合では収益性を向上させるため、取れた作物をエーエフカガヤキの直売所で販売するなど、共同経営の利点を生かした取り組みも行っています。坪谷さんは「これからは近隣の法人とも協力し、効率性・収益性の向上を図っていくことが大切。コメを中心に園芸作物も含めて所得の安定・向上に向けて取り組んでいきたい」と意気込みを語ってくれました。

農業の後継者を増やすためにも、
農業を稼げる産業にしたい



木津ハウス組合
(江南区木津) 代表 坪谷 利之さん



10月4日に中原市長が同ハウス組合の園芸ハウスを視察。エーエフカガヤキの阿部さん(写真左)からイチゴの生育状況について説明を受ける



ハウス栽培で収穫した作物は同ハウス組合の共通ブランド「ユニークSUN'S」として販売



「新潟米のおいしさには自信があります」

編集後記～取材を終えて
新潟の農業を守り続けるため、地域で協力しながら持続可能な農業に取り組んでいる農業者がいるからこそ、私たちはいつでもおいしい物が食べられるのだと実感しました。
私もスーパーなどで買い物をするときには市内産の野菜や果物などを選び、市内の農家を応援していきたいと思います。

地産地消で農家を応援しよう
新潟市食育・花推進キャラクター まいちゃん
旬の食材や地産地消推進の店など本市の食と花の魅力をツイッター、インスタグラムでも発信しています
スマートフォンはこちらから
食べて! 買って! 巡って!
豪華賞品を当てよう!!
「新潟Gozzo3めぐり」
キャンペーン参加店舗で各店舗指定の商品(市内産食材やそれらを使ったメニュー)を購入・飲食するともらえるスタンプを3つ集めて応募した人の中から、抽選で豪華賞品をプレゼントします。
※参加店など詳しくは市内の公共施設で配布している同キャンペーンガイドブック(応募用紙付き)に掲載
●期間 12月1日(日)まで ※応募は12月10日(火)まで
賞品
A賞(5人)・・・参加店舗で使える食材の商品券(2万円分)
B賞(20人)・・・市内産食材の詰め合わせ(5千円分)
C賞(25人)・・・参加店舗で使える食事券(2千円分)
問 食と花の推進課 ☎025-226-1794

■本市の農業産出額はコメが半分以上を占める
そのほか 花卉、果実
合計 579.8億円
野菜
出典：農林水産省「平成29年市町村別農業産出額(推計)」

■農業産出額(全体)は全国6位、コメ部門では全国1位
●農業産出額(全体)
順位 市町村名 金額(億円) 産出部門(上位3つ)
1 愛知県田原市 883.3 野菜、花卉、豚
2 宮崎県都城市 771.5 豚、肉用牛、ブロイラー(肉用鶏)
3 茨城県鉾田市 754.1 野菜、豚、イモ類
6 新潟市 579.8 コメ、野菜、果実

●農業産出額(コメ部門)
順位 市町村名 金額(億円)
1 新潟市 309.7
2 秋田県大仙市 148.8
3 新潟県長岡市 144.4
4 山形県鶴岡市 141.4
5 新潟県上越市 132.9
出典：農林水産省「平成29年市町村別農業産出額(推計)」

■水田面積、農業就業人口 全国1位
●水田面積 単位：ヘクタール
1 新潟市 28,400
2 秋田県大仙市 18,300
3 岩手県奥州市 17,100

●農業就業人口 単位：人
1 新潟市 15,257
2 青森県弘前市 11,796
3 静岡県浜松市 11,576
出典：農林水産省「平成30年面積調査」、「2015年農林業センサス」

新潟市の農業
本市は水田面積、農業就業人口が全国1位、農業産出額(全体)が全国6位の大農業都市です。主要品目はコメで、部門別の産出額は全国1位です。農業産出額(全体)の上位の市町村を見ると、野菜や畜産物などが主要作物となっており、本市でも収益性の高い園芸作物とコメとの複合営農を推進し、農業者の所得の安定・向上につなげるよう支援していきます。